



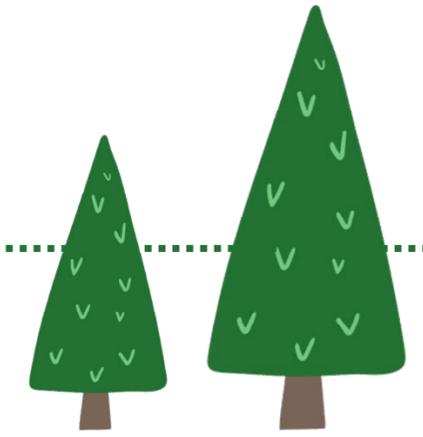
脱炭素先行地域



# 農業の課題解決に向けた ソーラーシェアリングを中心とした 再エネ事業

匝瑳市





01

脱炭素化のねらい

02

地域脱炭素でアプローチする地域課題

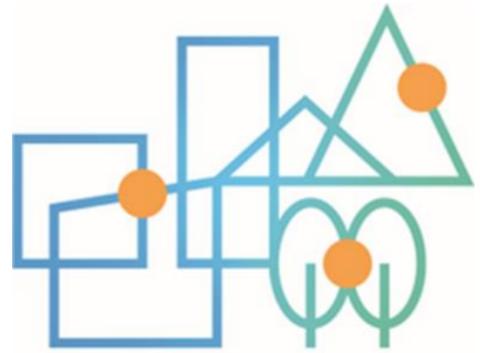
03

脱炭素先行地域の取組

04

計画の推進を巡って

# Table of Contents



脱炭素先行地域



# 脱炭素化のねらい

01

少子化、高齢化、空き家、シャッター街、水産資源の減少、  
一次産業従事者の減少・後継者不足、観光消費額が少ない、  
観光地の交通渋滞、頻発する自然災害、気候変動、

耕作放棄地、人  
管理不足、不法  
生、観光客の減

# 山積する

口減少、森林の  
投棄、商店街再  
少、地域経済の

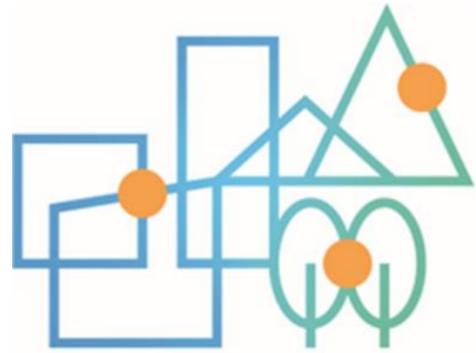
# 地域の課題

疲弊、地域  
の存続危機、  
技術の継承、

コミュニティ  
伝統文化・  
出産・子育て

て環境、女性の活躍、地域に裨益しない再エネの導入、廃校  
、観光地の廃屋増加、買い物難民、観光2次交通、里山の荒  
廃、有害鳥獣対策、生物多様性保全、オーバーツーリズム、

いかに匝瑳市を  
住み続けられる  
まちにするか



脱炭素先行地域



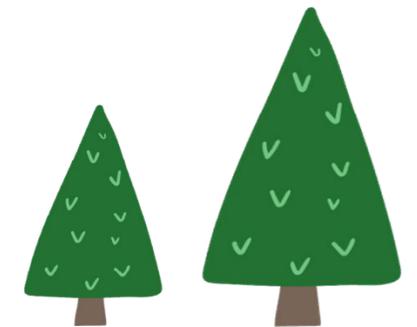
# 地域脱炭素でアプローチする地域課題

02

## 地域脱炭素でアプローチする地域課題

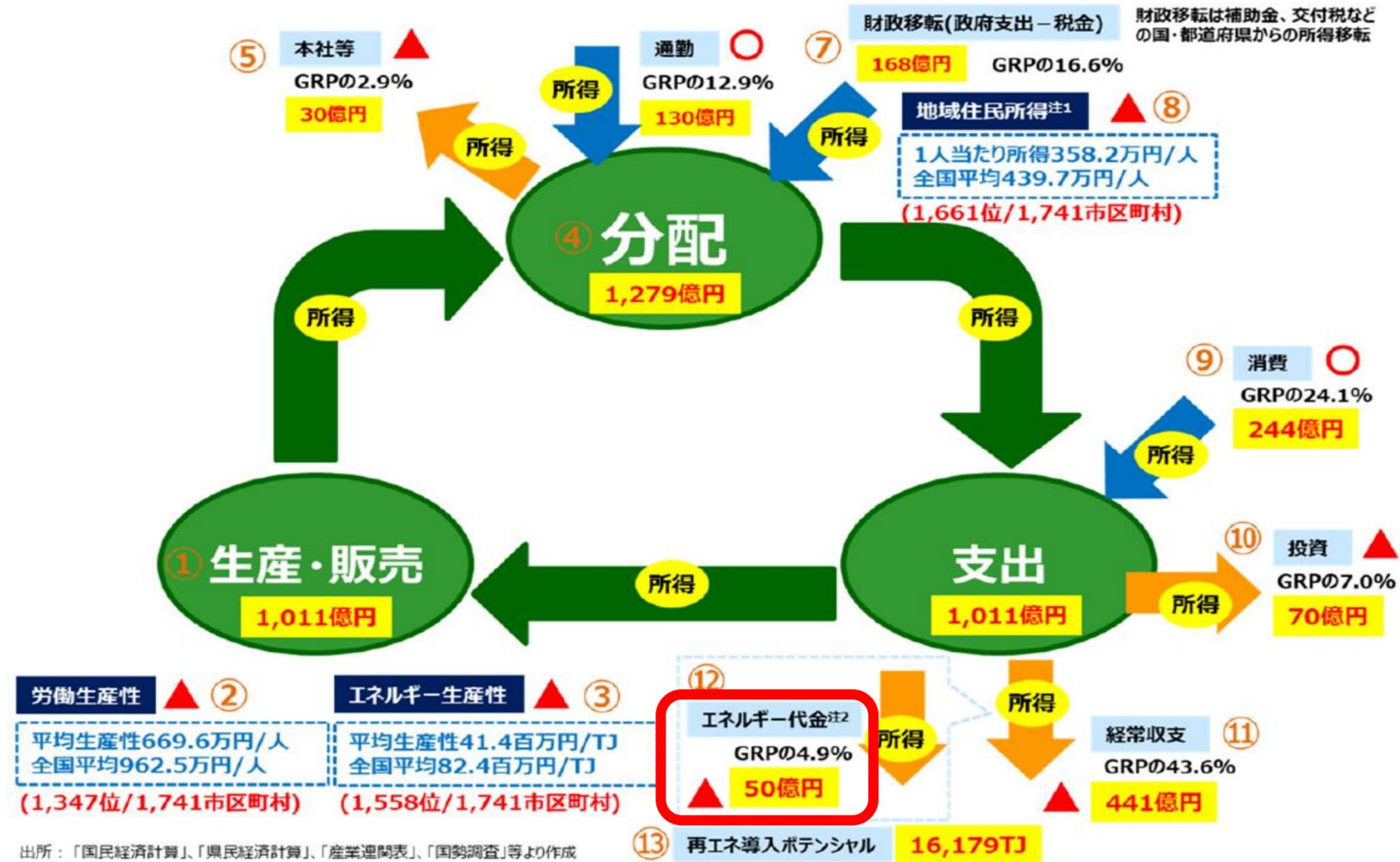
### 農業（稲作、植木産業）の活性化

- ①千葉県内で第3位の稲作地域である稲作農業は、米価の下落や近年の**物価高騰**、**後継者不足**等の問題を抱える
- ②日本有数の植木産業で排出される年間3,000t以上の剪定枝が地域内で有効活用できず、**処理コスト**が負担に

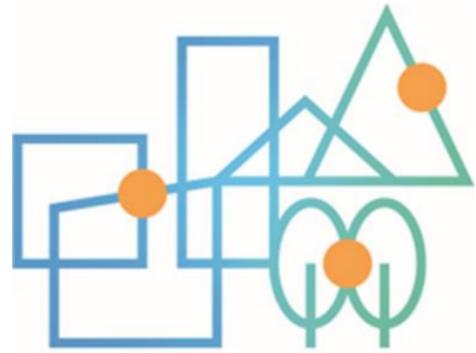


# 地域脱炭素でアプローチする地域課題

## 地域のお金の流出防止とエネルギー安全保障



出所: 「国民経済計算」、「県民経済計算」、「産業連関表」、「国勢調査」等より作成



脱炭素先行地域



# 脱炭素先行地域の取組

03

## 農業（稲作、植木産業）の活性化

## 営農型ソーラーシェアリングによる収益（利益）向上

- 畑作営農型ソーラーシェアリングで培った細型パネルの技術や設置、運営ノウハウを活用し、新たに**水田営農型ソーラーシェアリング**を展開（約7ha）
- 収益性の低い稲作に売電収入（耕作委託金）が付与されることにより、稲作農業の持続可能性を高めていくモデル「**匠瑳モデル**」を構築



## 農業（稲作、植木産業）の活性化

## 営農型ソーラーシェアリングに取り組む自治体との連携

既に脱炭素先行地域に選定された自治体（滋賀県米原市様、熊本県あさぎり町様、新潟県関川村様）と営農型ソーラーシェアリングに関する**連携協定**を締結。

（東京都江戸川区様、千代田区様と再生可能エネルギーの活用を通じた**連携協定**を締結。）



技術連携、共同調達等でスケールメリットを発揮し

**全国的な**営農型ソーラーシェアリングの普及に寄与し

さまざまな自治体とも連携して行きたい。

## 自治体間連携協定の締結

ソーラーシェアリングに関するノウハウの共有や  
電力供給について連携



江戸川区との連携では、区内中学校  
校に電力供給をスタート。  
都市農村交流の一環で江戸川区民  
祭りに参加

その他、双方の取組視察・意見交換等を実施。  
パネルの共同調達についても協議を進めている。



## 農業（稲作、植木産業）の活性化

## ソーラーシェアリング・アカデミー事業

## ■ ミッション

- ・ 農業 × エネルギー × 地域づくりを学び、**実践や起業を担える人材を育成**
- ・ **他領域にわたる理論と実学**を学べることができ、研究と実践ができる機関を目指す

## ■ 基本的な機能

## ソーラーシェアリングに関する

- ・ 学習と実践を通しての学び
- ・ 研究とイノベーションと起業の拠点
- ・ 国内外の共同研究と相互フィードバック
- ・ 国内外の人と知のネットワークの拠点



## 農業(稲作、植木産業)の活性化

## 植木剪定枝を地域バイオマス資源として活用

- 植木剪定枝を燃料とする**バイオマスボイラー**を導入し、避難所となる公共施設(市民ふれあいセンター)に熱供給



農業(稲作、植木産業)の活性化

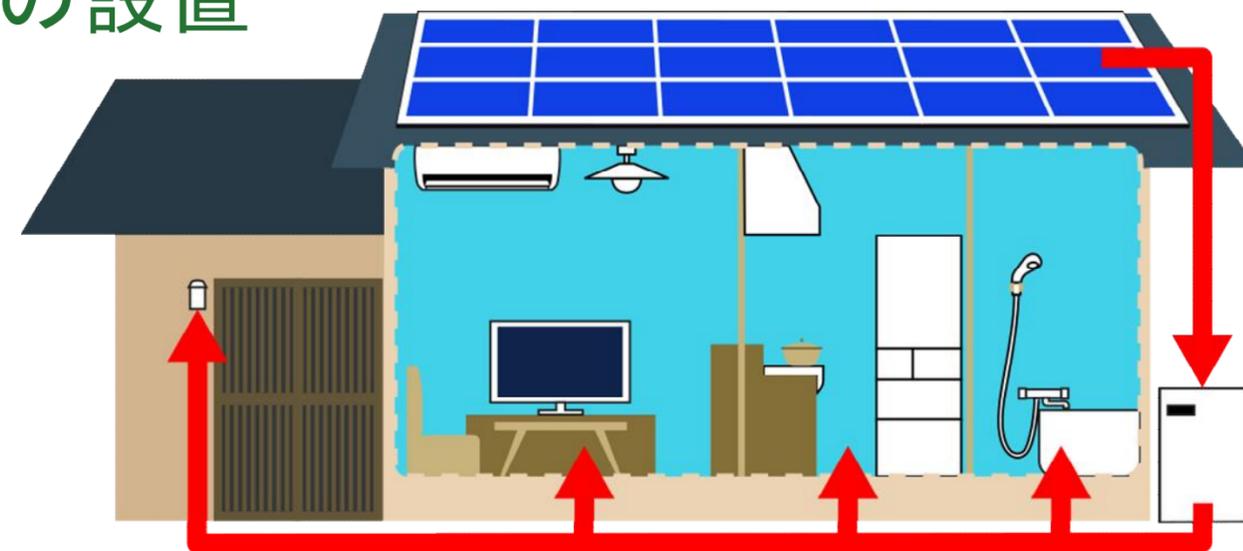
植木剪定枝を地域バイオマス資源として活用



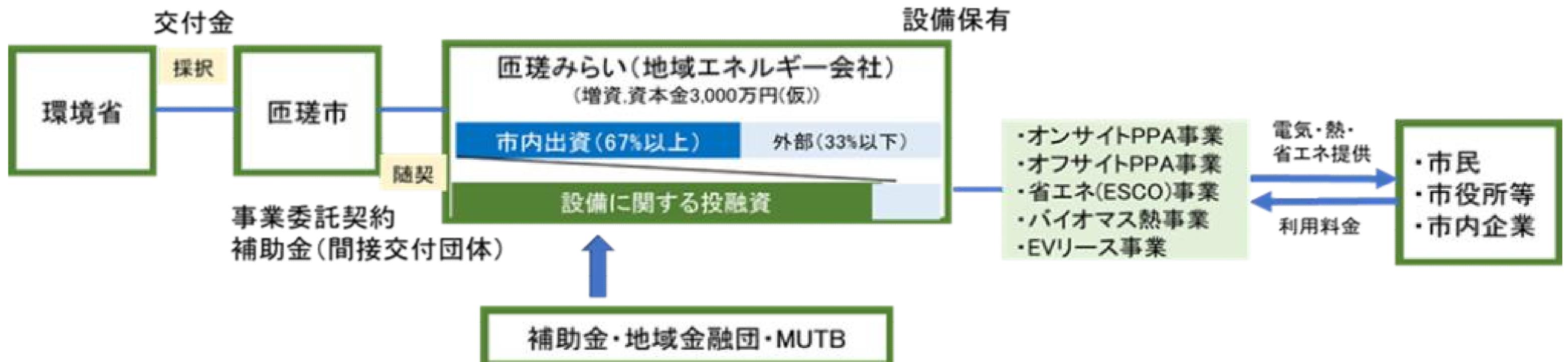
植木剪定枝等から**バイオ炭**を製造し、土壌改良剤とCO2の農地貯留

## 再生可能エネルギー活用取組

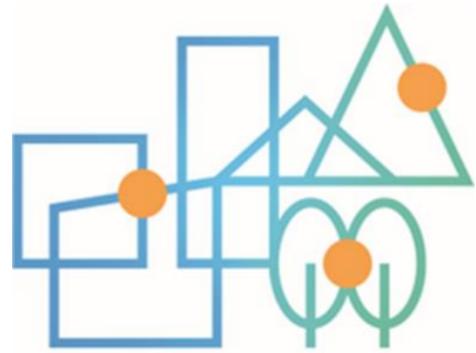
- オンサイトPPAによる、ご自宅への太陽光発電設備の設置
  - 電気料金の低廉化
  - 災害時の非常用電源確保
- 再エネ切替え
  - CO2排出量が削減できるため、環境保全への貢献



## ○事業の運営スキーム



- ・匝瑳みらい株式会社(令和5年4月に設立)が間接交付団体として事業を実施
- ・匝瑳市から匝瑳みらい株式会社へ300万円出資



脱炭素先行地域



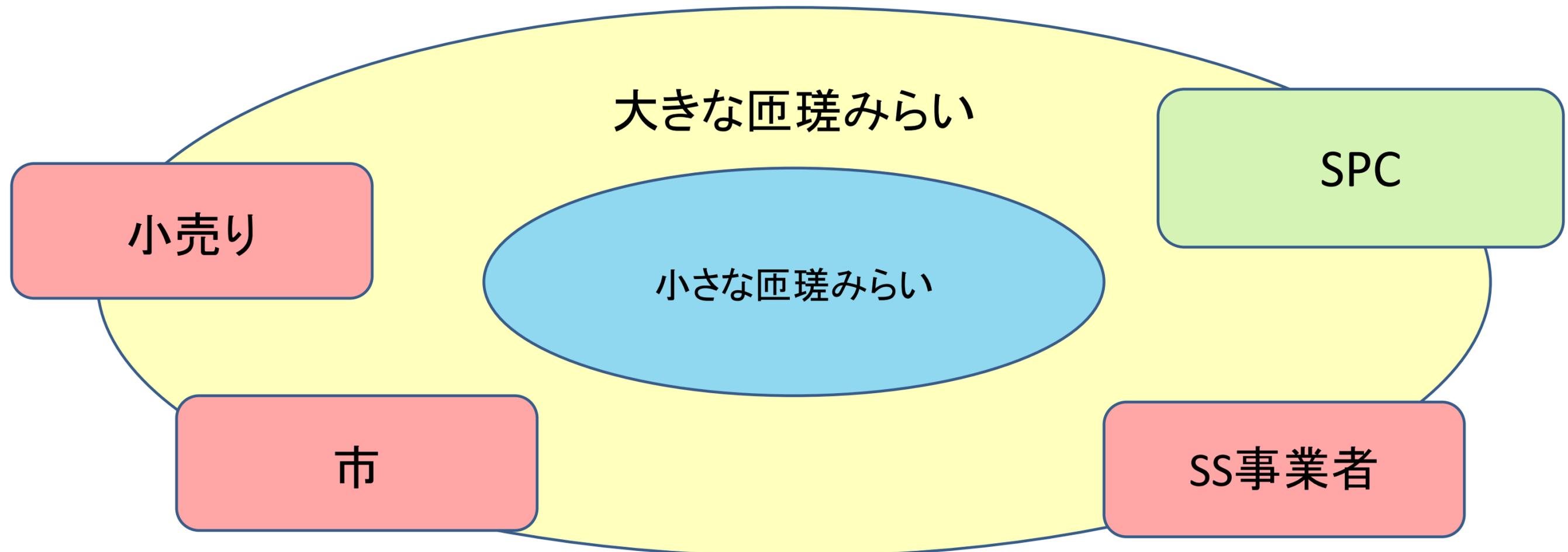
# 計画の推進を巡って

04

## ○計画と現実の乖離

## ▪地域エネルギー会社のあり方を巡って

→大きな匝瑳みらいと小さな匝瑳みらいの議論



## ○計画と現実の乖離

### ・資金調達方法の見直し

匠瑳みらいが新しい事業者であるため、実績がなく資金調達に苦慮。

→コーポレートファイナンスではなく、プロジェクトファイナンスへ。債務保証や損失補償についての検討、土砂災害等のハザードエリアにおける融資の可否等、調整は多岐に。

## ○計画と現実の乖離

### ・地域事業者育成と品質保証のジレンマ

地域内資源循環や今度の脱炭素案件の円滑な実施を目指し、なるべく地域の事業者を起用

→入札資格不保持、ノウハウ不足、地域エネルギー会社との連携不足。急ぐ工事に手違いやクレームも発生。

→公共財産管理を担当していた職員が立ち会い。

指導を行ないながらなんとか乗り切る。



# 令和6年度の実績



- 公共施設4施設、民間施設5施設、住宅7軒に太陽光発電設備、蓄電池を導入
- 庁用車として電気自動車を5台導入 等